



1. 日米株式と円/ドルの推移 (チャートは過去1年)



| | 単位 | 2010/12/31 | 2011/4/29 | 2011/5/13 | 過去3年高値 | | 過去3年安値 | |
|------|----|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|------------|
| | | (前年末) | (前月末) | (前週末) | 水準 | 日付 | 水準 | 日付 |
| 日経平均 | 円 | 10,228.92 | 9,849.74 | 9,648.77 | 14,601.27 | 2008/6/6 | 6,994.90 | 2008/10/28 |
| NYダウ | ドル | 11,577.51 | 12,810.54 | 12,595.75 | 13,136.69 | 2008/5/19 | 6,469.95 | 2009/3/6 |
| 円/ドル | 円 | 81.12 | 81.19 | 80.80 | 110.66 | 2008/8/15 | 76.25 | 2011/3/17 |

当社が信頼できると判断した情報に基づき当社作成

2. 日本株市場の振り返り

| | |
|---------|--|
| 先週の振り返り | <p><下落、GW(ゴールデンウィーク) 前の水準に戻る></p> <p>先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が▲210.43円(▲2.13%)、TOPIXが▲16.56ポイント(▲1.93%)とGW前の水準まで戻す展開となりました。業種別(東証33業種)にみると、輸送用機器、水産・農林業、ゴム製品の3業種のみが上昇する一方、電気・ガス業、その他製品、証券・商品先物取引業など30業種が下落しました。週明け9日の日本株市場は、先々週末の6日夜、菅首相が突然中部電力に対して浜岡原子力発電所の全ての原子炉の運転停止を要請したことを受けて、電力株中心に売られる展開となりました。週半ばにかけては、輸出関連企業中心に好調な決算発表が相次いだことや円高進行が一服したことなどから、日経平均は一時9,900円台まで反発する場面もみられましたが、その後は、①ギリシャのソブリン・リスク(国の信用リスク)の高まりからユーロが一段と売り込まれたことにより一時113円台まで円高ユーロ安が進んだこと、②投資家のリスク回避姿勢が強まる中、原油等商品市況が大きく下落したこと、③13日、枝野官房長官が金融機関の東京電力向け貸付に対して債権放棄を示唆したことを受けて銀行株が売られたことなどから、GW前の水準となる9,600円前後まで戻す展開となりました。</p> |
|---------|--|

3. 今週の主な予定

| 日程 | 曜日 | 国・地域 | 項目 | 前回 | 前回 |
|-------|-----|------|----------------------------|-------|-------|
| 5月16日 | Mon | 日本 | 機械受注(船舶・電力除く民需)(前月比) | 3月 | -2.3% |
| 5月16日 | Mon | 日本 | 企業物価指数(国内)(前年比) | 4月 | 2.0% |
| 5月16日 | Mon | 米国 | ニューヨーク連銀製造業景況指数 | 5月 | 21.7 |
| 5月17日 | Tue | 米国 | 住宅着工件数(年換算) | 4月 | 549千件 |
| 5月17日 | Tue | 米国 | 鉱工業生産(前月比) | 4月 | 0.8% |
| 5月19日 | Thu | 日本 | 国内総生産(GDP)速報値(実質 前期比年率) | 1-3月期 | -1.3% |
| 5月19日 | Thu | 日本 | 日本銀行、政策委員会・金融政策決定会合(20日まで) | | |
| 5月19日 | Thu | 米国 | 景気先行指標総合指数 | 4月 | 0.4% |
| 5月19日 | Thu | 米国 | フィラデルフィア連銀製造業景況指数 | 5月 | 18.5 |
| 5月20日 | Fri | 日本 | 全産業活動指数(前月比) | 3月 | 0.7% |

| | | |
|---------|----|--|
| 決算発表予定他 | 日本 | 決算発表(3月通期) : 5/16 三菱UFJフィナンシャル・グループ 5/17 カシオ計算機 5/18 マツモトキヨシホールディングス 5/19 東京海上ホールディングス 5/20 日本通運、ソニーフィナンシャルホールディングス、東京電力 |
| | 米国 | 決算発表(1-3月期) : 5/17 ウォルマート 5/18 ヒューレット・パッカート |

当社が信頼できると判断した情報に基づき当社作成

4. 日本株市場の見通し

| | |
|--------|--|
| 今週の見通し | <p><東電の問題拡大に世界的なリスク回避の動きが重なり、日経平均は9,000円台半ばで弱含みの展開を想定></p> <p>今週の日本株市場は、先週末の枝野官房長官による「銀行に東電向けの債権放棄を求める」趣旨の発言が明確に否定されない中、海外ではギリシャ問題の再燃や米中の景気減速懸念、商品相場下落などでリスク回避の動きが高まっていることから、日経平均は9,000円台半ばで下値リスクの高い展開を想定しています。先週で3月期決算企業の業績発表が一巡したことも、買い材料が減少する要因と考えられます。また需給では、指標としてみている欧州の証券会社の日経平均先物の買建が未だに約1万枚あることや、日経平均オプション6月限の権利行使価格が9,500円のプット(売り)のオープンインタレスト(未決済建玉残高)が+36,000枚強まで積み上がってきたことも、下に値幅が出やすい要因とみえています。ただし、CME(シカゴ・マーカンタイル取引所)の投機筋のポジション(持ち高)が円買いドル売りに転換したことは、ややポジティブな材料と考えています。経済指標では、米国で16日に発表されるニューヨーク連銀製造業景況指数、17日の住宅着工件数、鉱工業生産、19日のフィラデルフィア連銀製造業景況指数、日本では16日の機械受注、19日の国内総生産(GDP)速報値が重要と考えています。また決算発表では、16日に発表される三菱UFJフィナンシャル・グループや、19日の東京海上ホールディングス、20日の東京電力などに注目しています。</p> |
|--------|--|

本資料は、朝日ライフアセットマネジメント(以下、当社といいます)が、投資の参考となる情報提供を目的として作成したもので、特定の商品に対する投資勧誘を意図するものではありません。本資料は当社が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。資料中に記載されたグラフ、数値等は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。また、コメントについては作成日時時点での判断であり、将来予告なく変わることがあります。最終的な投資決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。